

# 令和3年度 学校法人増田学園 事業活動報告書

「令和3年4月1日～令和4年3月31日」

## I 法人の概要

### (1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人増田学園  
②法人本部の所在地 〒260-0006 千葉県千葉市中央区道場北1-17-6  
千葉聖心高等学校内  
電話番号 : 043-225-4151  
FAX番号 : 043-227-7278  
HPアドレス : <https://www.chibaseishin-h.ed.jp/>

### (2) 建学の精神

- 聖心 清らかな心で他者を思いやること  
○努力 目標の実現に向け何事にも真剣に取り組むこと  
○奉仕 自ら進んで社会に貢献すること

### 【学祖の意志（信念）】

私の学校の校訓の「努力、奉仕の心に徹せよ」は父の教訓を基として生まれたのであるが、道徳、人間形成の道においては昔も今日も変わりのある筈はなく、むしろ今の社会においてこそ、道徳が必要であると確信している。それ故に、私は私なりに時代に即応した道徳、人間形成の教育を説くことに私の生涯を捧げていきたいと、深く心に決めている。

—増田うめ著「吾が愛の教育9Pより」—

### (3) 沿革

- |       |     |  |
|-------|-----|--|
| 昭和22年 | 4月  | 千葉洋裁学院創立（千葉市中央区椿森）   |
| 昭和32年 | 1月  | 学校法人増田学園認可 理事長・学園長に増田うめ就任  |
| 昭和39年 | 11月 | 千葉女子専門学園と改称  |
| 昭和42年 | 4月  | 校舎新築移転（千葉市中央区道場北）  |
| 昭和44年 | 4月  | 保育科開設（保母養成課程）  |
| 昭和45年 | 4月  | 保育科に幼稚園教員養成課程を開設   |
| 昭和48年 | 4月  | 千葉女子専門学園附属幼稚園設置認可（千葉市美浜区高洲）  |
| 昭和51年 | 4月  | 千葉女子専門学校及び千葉女子専門学校附属幼稚園と改称   |
| 昭和54年 | 4月  | 千葉聖心高等学校設置認可（全日制課程普通科）   |
| 昭和62年 | 4月  | 東館校舎増築   |
| 平成20年 | 3月  | 校舎移転（現在地）  |
| 平成20年 | 4月  | 2代目学校法人増田学園長に増田良子就任  |
| 平成20年 | 11月 | 増田学園校舎改修落成記念式典挙行   |
| 平成24年 | 4月  | 千葉女子専門学校附属ひじり保育園開園   |
| 平成27年 | 3月  | 千葉女子専門学校附属聖幼稚園廃園   |
| 平成27年 | 4月  | 幼保連携型認定こども園<br>千葉女子専門学校附属聖こども園設置認可                                 |
| 平成29年 | 4月  | 千葉女子専門学校 文部科学大臣から「職業実践専門課程」の認定                                     |
| 平成30年 | 1月  | 千葉市保健福祉局地域福祉課監査指導室による平成29年度社会福祉法人等指導監査（1月25日実施、対象：千葉女子専門学校附属聖こども園） |
| 平成31年 | 1月  | 同年1月29日付けで文部科学大臣から「平成31年度以降の教員養成機関」としての指定を受ける。                     |
| 平成31年 | 3月  | 同年3月28日付けで千葉県知事より「保育士養成課程に係る学則変更」について、31年度の学生から適用通知を受ける。           |

平成31年 4月 同年4月8日付けで文部科学大臣から「指定教員養成機関の教育課程の変更」について、平成30年度及び平成31年度とも認定となる。

令和 元年 9月 同年9月20日付けで千葉県知事から高等教育の修学支援新制度の対象機関として千葉女子専門学校が認定される。

令和 元年10月 同年10月1日から千葉女子専門学校附属聖こども園において「幼児教育・保育の無償化」を開始。

#### (4) 設置する学校名及び所在地

学 校 名	所 在 地
千葉女子専門学校	千葉市中央区道場北1-21-21
千葉聖心高等学校	千葉市中央区道場北1-17-6
幼保連携型認定こども園 千葉女子専門学校附属聖こども園	千葉市美浜区高洲2-3-24

#### (5) 施設等の状況

①土地所有面積 29,065.19㎡

内訳： 本部（高校）（21,425.77㎡）

専門学校（4,762.40㎡）

聖こども園（2,877.02㎡）

②建物面積 11,294.528㎡

内訳： 本部（高校）（6,441.62㎡）

専門学校（3,085.758㎡）

聖こども園（1,767.15㎡）

#### (6) 学生生徒数等（令和4年3月31日現在）

名 称	学 科	募集定員			令和3年4月1日現在		令和4年3月31日現在		
					人数	計	人数	計	
千葉女子専門学校	保育科 (女子)	1年	100		73(8)	140(18)	72(8)	138(18)	
		2年	100		67(10)		66(10)		
千葉聖心高等学校	全日制 普通科 (女子)	1年	200		204	513	189	482	
		2年	200		161		146		
		3年	200		148		147		
千葉女子専門学校 附属聖こども園	保育部	0歳	6	30	6	30	6	30	
		1歳	9		9		9		
		2歳	15		15		15		
	幼稚舎	3歳	1号	22	42	34	48	21	47
			2号	20		14		26	
		4歳	1号	22	42	20	47	12	46
			2号	20		27		34	
		5歳	1号	22	42	19	49	16	50
2号	20		30	34					

※ (1) こども園乳幼児の区分

1号認定児（保育を必要としない3歳～5歳児）

2号認定児（保育を必要とする3歳～5歳児）

3号認定児（保育を必要とする0歳～2歳児）

(2) 高校の定数

180名（推薦・併願等）

20名（一般）

200名（合計）

(3) 専門学校

( ) は訓練生

※ 令和3年度 全体の学生生徒等人数【1】当初総数

827名 2)年度末総数 793名

差異 34名減】

(7) 歴代理事長・学園長

[理事長]	初代理事長 (財団法人含む)	増田 うめ (昭和26年～昭和34年)
	第2代理事長	増田 清 (昭和35年～昭和59年)
	第3代理事長	増田 浩 (昭和60年～平成16年)
	第4代理事長	増田 和人 (平成17年～)
[学園長]	初代学園長	増田 うめ (昭和26年～平成8年)
	第2代学園長	増田 良子 (平成20年～)

(8) 法人役員等の状況 (令和4年3月31日現在)

① 理事 (寄附行為規定6名～8名)

No.	氏名	就任年月日	態様	備考
1	増田 和人	H17.4.1	常	理事長
2	山岸 信和	H28.4.1	非	副理事長
3	増田 良子	H20.4.1	常	法人学園長 (現千葉女子専門学校長)
4	星野 和彦	H12.7.18	非	元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長
5	前嶋 薫	H25.4.1	非	元株式会社監査役、元株式会社取締役社長、元銀行役員
6	足立 叡	H29.7.24	非	元大学長・元大学教授、元千葉女子専門学校非常勤講師
7	三浦 勤治	H30.4.1	常	現千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長

② 監事 (寄附行為規定2名)

No.	氏名	就任年月日	態様	備考
1	渋谷 正	H16.4.1	非	元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長
2	藍原 誠壽	H26.4.1	非	元大学AO入試センター教授、元県立高等学校長

※「態様」欄は、常勤役員等の場合は「常」、非常勤役員等の場合は「非」と表示。

③ 評議員 (寄附行為規定13名～17名)

No.	氏名	就任年月日	備考
1	増田 良子	H20.4.1	寄附行為第24条第1号
2	浮貝 公雄	R1.10.16	寄附行為第24条第2号
3	日暮さつき	H25.4.1	寄附行為第24条第2号
4	中野 武彦	R2.4.1	寄附行為第24条第2号
5	平塚 雅一	R2.4.1	寄附行為第24条第2号
6	千葉 良夫	H26.4.1	寄附行為第24条第2号
7	増淵恵理子	H27.4.1	寄附行為第24条第3号
8	齊藤 松子	R2.4.1	寄附行為第24条第3号
9	星野 和彦	H12.7.18	寄附行為第24条第4号
10	山岸 信和	H24.1.10	寄附行為第24条第4号
11	三浦 勤治	H30.4.1	寄附行為第24条第4号
12	龍田知恵子	H31.4.1	寄附行為第24条第5号
13	佐竹 恒輝	H31.4.1	寄附行為第24条第5号
14	中村 伸子	H24.6.15	寄附行為第24条第6号
15	増田 和人	H17.1.25	寄附行為第24条第6号

(9) 教職員数 (令和4年3月31日現在)

区分	本部		千葉女子専門学校		千葉聖心高等学校		千葉女子専門学校 附属聖こども園		合計		
	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	4/1	3/31	
教員	常勤	0	0	15	15	35(1)	35(1)	28	27	78(1)	77(1)
	非常勤	0	0	20(1)	20(1)	13	13	5	5	38(1)	38(1)
職員	常勤	6(3)	6(3)	3	3	0	0	2	2	11(3)	11(3)
	非常勤	1(1)	2(2)	2	3	0	0	2	3	5(1)	8(2)
合計	7(4)	8(5)	40(1)	41(1)	48(1)	48(1)	37	37	132(6)	134(7)	

注記 ・常勤職員 (正規職員の勤務時間と同等の勤務する者を含む)、非常勤職員 (常勤職員以外の者) ・( ) 内は兼務職員の内数

## Ⅱ 令和3年度 事業活動報告書の概要

—はじめに—

昭和22年創立以来、70有余年が立つ。「聖心・努力・奉仕」を建学の精神とし、一貫して女性の自立、活躍、幸せ、そして人間形成をめざした教育を推進してきた。その間には、時代の流れ、社会の変化に翻弄され、また、後押しされながら今日に至っている。

現在、学園では2校1園を運営しているが、それぞれに職員の真摯な取り組みと、保護者や子どもたちの信頼、地域の人々の支えなど、すべてのステークホルダーに支えられながら発展を遂げてきたと自負している。一方で、今後の学園を中長期的に捉えると、少子高齢社会にあって学生生徒等の確保の問題や、教育課程の改訂等に伴う教育の質の向上への取り組み、そして校舎や体育館等施設設備の老朽化対策、あるいは職員の働き方を含む学校行事や部活動の在り方など、多くの問題や課題等が山積している状況にあると捉えており、当学園のこれまでの歴史や経営方針をふまえながら、1年1年をしっかりと取り組んでいかなければならないと考えている。

さて、令和3年度の事業活動の展開については、そうした中で、教育機関としての役割を果たすため、専門学校では、笑顔あふれる保育者の育成と就職支援を、高校では基礎基本を重視した学び直しと希望の持てる進路開拓を、こども園では遊びをとおした人間形成と子育て支援を行い、それぞれの教育・保育の展開を留まることなく推進してきた。残念ながら、2019年12月以降から発生している新型コロナウイルスの感染拡大は今年度も続き、学級閉鎖、分散登校、授業の短縮や振替、入学式・卒業式、学園祭、体育祭、遠足などの行事の中止や規模縮小など、さまざまな制約や変更を余儀なくされてきた中での取り組みとなったが、しかしながら、学生生徒や保護者等のご理解とご協力をいただき、そして職員のためまい創意工夫と真摯な取り組みにより、大きな支障が出るような学校運営から回避できたと考えている。むしろ、今までの常識から新たな気づき（発見）もあり、今後の学校運営にとっては有益な2年半（コロナ禍）であったと感じている。

現在、緊急事態宣言の発令やまん延防止法の措置が解除され、夜間の外出や遠出なども緩和され、少しずつ日常が戻ってきつつあるようにも感じるが、未だに新型コロナウイルスの感染が終息したわけではなく、とりわけ新型株ウイルスの再流行が懸念されている状況であることから、引き続き、感染予防対策に万全を期しながら教育活動・学校運営に取り組んでいかなければならないと思いを新たにしたところである。

以下、学園としての今後の課題等を踏まえながら、令和3年度の2校1園の取り組みについて、その事業実施概要をまとめたものである。

### （1）千葉女子専門学校

学祖の意志を継承し、戦後の復興期から女性の自立・幸せ及び人間形成をめざした教育を実践してきた。洋裁をはじめとする服飾技術と心の教育を柱として始まり70有余年が経つ。その間、時代の要請とともに専門学校は、幼児教育・保育の分野へと転換を図り、昭和44年4月に保育科を開設し保母養成課程（現保育士養成課程）を、昭和45年には幼稚園教諭養成課程をそれぞれ設置致した。魅力あふれる保育者の養成をめざして50年有余が経過する。卒業生もおよそ6,700名を超え、幼児教育・保育等の中枢で活躍している。一方、昭和48年4月には専門学校附属の聖幼稚園、平成20年4月には同ひじり保育園、平成27年4月には二つの園を統合して、千葉市内では最初の幼保連携型認定こども園千葉女子専門学校附属聖こども園を開園し、幼児教育・保育の実践ができるように環境を整え、今日に至っている。

#### 【教育目標】

- 本学園の建学の精神である「聖心・努力・奉仕」に基づき、豊かな感性と表現力をもった保育者を育成する。
- 幼稚園教諭・保育士養成校としての長年の伝統を生かし、乳幼児教育をライフワークとし日々研鑽・成長する保育者を育成する。

○教育にあたっては、個々の学生の資質や個性を十分に把握し、個々に応じた綿密な教育の実現を目標とする。

### 【質の向上・充実】

- 教育課程の見直しによるカリキュラムの定着に注力してきた。
- 学生には、授業に対する意見等を聞くなどしながら授業展開してきた。
- 教室内の授業態度も落ち着いており、その効果が現れている。引き続き授業改善に努めながら、また、教員自身の研究と自己研鑽をとおして指導力の向上を図り、質の高い教育の提供に努めていきたい。

### 【教育環境の整備充実】

- 昨年度隣接地（158.14㎡≒48坪）を取得し、そこに含まれる公有地（48㎡≒15坪）の払下げが今年度完了した。合計で約63坪の敷地面積となるが、避難路を含めた有効活用を検討中である。
- インターネット環境の改善を目的として、無線LAN、ハブ、アンテナ、Wi-Fiルータ、アクセスポイント等の整備を行った。
- 100人教室の机・椅子の更新、ホワイトボード及びプロジェクター等の整備。
- 大ホールの照明器具をLEDに交換。

### 【広報活動の充実強化】

- 高校訪問等の実施  
入学者の獲得は厳しい状況にあるが、県内の高等学校を中心に、訪問や進路ガイダンス等に積極的に参加し、本学の良さ、魅力をアピールしながら広報活動の充実強化を図ってきた。また、模擬授業をとおして本学での指導内容の理解と興味を深めてもらう工夫を行った。
- オープンキャンパスの開催  
年10回程度実施し、体験講座（工作遊び、手遊び、音楽表現など）や、学校概要（教育課程、実習、就職など）、入試要項の説明、校内見学などを実施した。

### 【現場に直結した実習指導の充実】

- 千葉女子専門学校附属聖こども園のほか、コロナ禍での変更を含め、他の幼稚園・保育園、障害者施設等のご協力をいただきながら教育実習及び保育実習を実施した。

### 【就職支援活動：令和3年度進路状況（別表（1）、別表（2））】

- クラス担任制による学生と教師がコミュニケーション活動の充実を図っている。  
何でも相談できる環境づくり、また、就職担当職員とともにきめ細かな就職指導やサポートを組みながらその支援活動を実施してきた。これは本学の特徴であり、その特徴や強みを生かしながら今後もその支援活動の充実を図ってきた。
- 面接や履歴書の作成指導を実施した。  
就職の決め手となる学生の良い面を引き出すための「面接指導」であり、また、分かりやすく好感の持てる履歴書の作成指導を行った。
- 「就職活動体験報告会」を実施し、就職の決まった2年生が、自身の活動経験をもとに1年生にアドバイスをするなど、就職活動の参考となるようにしている。
- 2年生を対象に「就職説明会」を実施。  
「近未来保育研究所」と連携した就職説明会を開催した。県内の幼稚園・保育園等32施設に参加していただいた。
- 「公務員講座」の実施。  
公立の幼稚園・保育所等への就職に向けて、「公務員講座」を実施した。  
一般教養、小論文の指導等、また、模擬試験を実施して希望が遂げられるように支援している。今年は3名が公務員試験に合格している。

### 【学校行事】

- 入学式については、入学生のみを対象として実施した。  
来賓、在校生の出席を取りやめ、保護者のみとして人数制限を行いながら実施した。

○スタートアップ研修の実施。

実施内容は、今後の学校生活における心構えや保育に関連した教師の講話、カリキュラムの概要、簡単な演劇、音楽、創作ダンスの発表など、オリエンテーション的な内容を含めたものであるが、実施内容は昨年と同様である。

○近隣の幼稚園児や地域の方々を招いて、7月には「七夕祭り」や11月には「学園祭」を実施予定であったが昨年同様に校内だけの実施とした。

**【高校・こども園との連携強化】**

○高校の「こども保育コース」を専攻している生徒への学習支援や実習指導。

○調理実習の授業の際の施設設備等の借用等の連携強化を図っている。

○こども園については、学生の教育・保育の実習先の一つとして指導をお願いしている。

また、こどもたちには、学園祭の見学に来ていただきながら交流を深めている。

**【諸課題等：個別報告書参照】**

○カリキュラムやシラバス等の適切な運用と、教員研修体制の更なる充実を図り、質の高い授業内容を学生に提供することを優先課題として取り組んでいくことは例年どおりであるが、引き続き、コロナウイルス感染予防対策をしっかりと行い、感染者を出さないように心がけることが重要であると考えている。

別表（1） 令和3年度 千葉女子専門学校卒業生 進路状況

(1) 保育所・幼稚園・こども園・施設等への就職者数 (令和3年度卒業生)													令和4年3月15日現在	
	保育所		幼稚園		こども園		施設			その他	未定	合計		
	私立	公立	私立	公立	私立	公立	児童養護	障害者支援	生活介護					
2A	16	1	2	0	6	0	6	0	0	0	0	31		
2B	18	2	3	0	3	0	3	2	0	1	1	33		
小計	34	3	5	0	9	0	9	2	0	1	1	64		
合計	37		5		9		11			1	1			

備考：・公務員合格者数（公立保育所への就職者：旭市、成田市、江戸川区）

・施設には、母子支援、乳児院、放課後等デイサービス事業含む。

・その他1名は他の専門学校への進学者である。

別表（2） 区市町村別就職者数 (令和3年度卒業生)

令和4年3月15日現在

区市町村名	県内																	県外					未定	合計				
	市川市	船橋市	習志野市	八千代市	松戸市	柏市	四街道市	千葉市	市原市	印西市	佐倉市	成田市	八街市	茂原市	君津市	旭市	香取市	いすみ市	大網白里市	木更津市	長生郡睦沢町	東京都江戸川区			東京都新宿区	国分寺市	水戸市	大阪府
2-A	0	6	1	0	1	0	15	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0					0	31
2-B	0	6	1	2	1	1	11	2	0	1	2	0	1	0	1	1	0	0			0	0			1		2	33
合計	0	12	2	2	2	1	26	2	1	1	3	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	2	64

## （２）千葉聖心高等学校

昭和４５年代以降における我が国の義務教育修了者の高等学校進学率は、高度経済成長とともに平均７０％台に伸びていた。都市部においては９０％台に迫る勢いであり、当時の文部省は私立高校に４０％の受入れを求めていたほどである。千葉県当局においても私学とのバランスを図りながら毎年公立高校の新設を推進していた時代であった。

このような背景にあって、当学園では、千葉女子専門学校の「家政高等課程」を廃止し、昭和５４年４月に千葉聖心高等学校（全日制課程普通科）を立ち上げたのである。爾来、学祖の一貫した女子教育への情熱のもと、女性の自立と幸せ、道徳と人間形成をめざした教育実践を展開し現在に至っている。「進学コース」、「総合コース」とともに、平成１９年から「こども保育コース」を設けて、千葉女子専門学校及び聖こども園との連携を図りながら保育者の養成にも寄与している。

### 【教育目標】

「聖心・努力・奉仕」の建学の精神に基づき、激動する２１世紀の社会を逞しく生きる個性豊かな女性の育成をめざします。

- （１）心豊かな礼儀正しい自立した女性の育成
- （２）確かな学力を身につけた行動力のある女性の育成
- （３）学校・家庭・地域の連携による社会に貢献できる女性の育成

### 【学校生活面での状況】

- 全体としては、落ち着いた学校生活を送っている生徒ばかりである。  
「ダメ」なものは「ダメ」と毅然とした態度で指導にあたっている。  
一方、周囲の人への配慮に欠けた言動がないように、また、SNSによる問題が発生しないようにと注意喚起等をし、情報モラル教育を推進している。

### 【学習指導の充実強化】

- 本校の生徒への指導の中心は「基礎基本の定着」であるため、分かりやすく丁寧な授業の組み立てと展開を進めている。授業のほかに、学び直しであるJITAN学習、個別指導などをおして基礎学力の底上げに注力してきた。また、ICT機器を活用やアクティブラーニングを積極的かつ能動的に学べる授業の実践に取り組んできた。
- 昨年に引き続き、コロナ感染予防対策のために学級閉鎖や授業変更などを余儀なくされた教訓から、今年度も「スタディーサプリ」を用意し、急な状況下でも学習内容の指示や課題を出せる体制を整えた。
- 今年度も、長期休業期間を利用した集中講座の開催や各種検定試験への挑戦を促し、学力の向上に努めてきた。

### 【行事への取り組み】

- ４月の入学式から翌年３月の卒業式まで、例年多くの行事を実施しているが、今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止や延期、規模縮小といった形で実施してきた。「入学式」及び「卒業式」は千葉市民会館にて該当学年のみで実施、「体育祭」は青葉の森陸上競技場にて、「球技大会」は千葉市民体育館にてそれぞれ午前中のみで、保護者等の参加無しで開催した。りんどう祭は、生徒の工夫により１日だけ校内だけで実施。２年生の沖縄への修学旅行は、最後まで様子を見ましたが、緊急事態宣言が発令されたため中止となっています。「予選会」は昨年と同様にテレビモニターによる動画配信によって実施しました。
- 行事をとおした「体験や学び」は、有形無形に生徒の成長に寄与するものであり意義深いものがあるため可能な範囲で実施していきたい。

### 【進路指導の充実：別表（3）】

- 働くことの意味や楽しさを理解し、体験してもらうための進路ガイダンスやインターンシップ等の積極的な推進を図ってきた。
- 保育とともに、看護系・医療系の進学希望者受験対策の強化を図ってきた。
- 大学や短大への進学指導については、夏期集中講座や個別指導をとおして対策を講じている。また、今回もコロナの影響により十分とは言えないが、生徒には積極的に大学訪問等の参加や体験を指導してきた。
- 就職活動についても、コロナの関係で困難な状況ではあったが、希望者のほとんどは就職を果たすことができた。

別表(3)

令和3年度 第3学年各クラス別進路状況

	A組		B組		C組		D組		E組		F組		合計			決定率
	望希	定決	望希	定決	望希	定決	望希	定決	望希	定決	望希	定決	望希	定決	定未	
大学	3	3	1	1	13	12	10	10	3	2	1	1	31	29	2	93.5%
短大	5	5	5	5	0	0	2	2	1	1	0	0	13	13	0	100.0%
専門	15	15	20	20	9	9	9	9	8	8	11	11	72	72	0	100.0%
就職	1	1	1	1	2	1	2	2	9	8	9	9	24	22	2	91.7%
その他	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2	3	3	7	7	0	100.0%
合計	25	25	27	27	24	22	24	24	23	21	24	24	147	143	4	
																97.3%
																2.7%

### 【部活動等の状況】

- 部活動は、生徒にとって仲間と苦楽を共に過ごしながら、自分自身の心身を成長させることのできる時間・空間であり、重要な教育活動の一環である。昨年に比べると少しずつ大会やコンテストが開催されるようになってはいるが、十分な状況とは言えない。校内での部活動も放課後1時間程度の制約の中で活動している。
- ボランティア活動や外部外部活動は、現在のところ自粛状態となっている。
- 各種大会の成績
  - ①ソフトテニス部
    - ・令和3年度千葉県高等学校新人体育大会地区大会団体優勝、個人戦6ペア出場
    - ・令和3年度千葉県高等学校新人体育大会団体戦ベスト16位、個人戦5位入賞
  - ②バトミントン部
    - ・令和3年度千葉県高体連新人バトミントン大会地区予選団体戦準優勝  
同大会 個人戦シングルス3位・4位入賞、同ダブルス3位・4位入賞  
同大会 団体、シングルス2名、ダブルス2組が県大会出場
    - ・令和3年度千葉県高等学校新人バトミントン大会団体戦ベスト16位  
同大会 個人戦シングルスベスト16位、ダブルスベスト16位
  - ③吹奏楽部
    - ・令和3年度千葉県吹奏楽コンクール B部門金賞

### 【広報活動の取り組み】

- 入学者の獲得のための広報活動については、令和3年度当初の目標である180名を上回ることはできず、147名に留まった。併願者からの入学者が伸び悩み目標には至らなかったが、少子化の状況でこれだけの人数を確保できたことは幸いである。
- 地区別では、千葉市内から入学者が最も多く、例年通り全体の約半数となっている。次いで、船橋・習志野、市川、市原と、総武線沿線に集中しているが、交通の便から捉えれば当然かもしれない。一方で前年度と比較すると、この沿線は減少している点では何らかの手立てを講ずる必要があるものと捉えている。



- 体験入学、学校説明会の参加者数は557名と、昨年を約160名程度下回った。体験入学の参加者にはそれほど差異は見受けられないが、第1回目の学校説明の参加者が昨年の半数42名に留まり、最後まで伸び悩みが続いてしまった。原因を分析し、これまで以上に中学校訪問や外部説明会への積極的な掘り起こしを図る必要があると考えている。
- 各種説明会時には、補助生徒も大きな活躍をしてくれており、活躍している現役生徒とともに魅力あふれる本校の姿をアピールしていきたい。

### 【女専・こども園との連携強化】

- 千葉女子専門学校は系列校であり、卒業生の進学先として重要な位置づけにある。また、普段の学習活動における相互協力の関係にあり、職員間の意思疎通と連携強化を図りながら推進してきた。今後も連携強化を図りながらスムーズな運営に努める。
- こども園においては、「こども保育コース」の生徒が保育実習で指導を受けてきた。次年度も年間計画の中で実施のための相互の調整を図りながら円滑に進めていきたい。

### 【その他学習環境整備等】

- 図書の本整備については、生徒の学習支援の充実を図る観点から、図書の分類整理、書架の配置の工夫等を行ってきた。生徒のニーズや社会変化に対応した図書の整備充実についても引き続き取り組んでいきたいと考えている。
- 情報機器を活用した情報教育、並びに教科指導におけるICT活用や校務の情報化・効率化について、その充実強化を図る必要があることから、コンピュータやiPad、キーボード等の追加購入を行った。
- 体育館の照明器具をLEDに交換、教室ベランダ手摺り補修、空調機の交換や修理等、校舎及び設備等の経年劣化に伴う整備を行う。

## （3）千葉女子専門学校附属聖こども園

これからの日本及びグローバルな世界で力強く生き抜く力、社会に貢献できる人材の育成は、幼児期からの教育・保育が大切である。こどもたちの感性豊かな心と体を育み、社会の変化とニーズに呼応した人間形成をめざすことを目的として、昭和48年4月に千葉女子専門学校附属聖幼稚園を、平成20年4月には同ひじり保育園を開園した。その後、時代の要請を受け、平成27年4月には二つの園を統合し、千葉市内では最初の「幼保連携型認定こども園」として千葉女子専門学校附属聖こども園を開園した。就学前の幼児教育・保育を提供及び地域における子育て支援に寄与しながら今日に至っている。

### 【教育・保育目標】

- (1) 教育・保育方針 「かしこく、たくましく、心健やかな子」
- (2) 教育・保育目標：
  - ①学びの芽を育て、生涯学習の基礎を培う。
  - ②自己を発揮し、たくましい体と優しさを身につける。
  - ③互いの気持ちを伝え合い、情操豊かな心を育てる。

- (3) 個別目標
  - 幼稚園 ― ①しなやかな心と体の発達を促す。
  - ②協調性を養う。
  - ③「集中力」と「達成感」を身につける。
  - ④「いのち」の大切さを知る。

- 保育部 ― ①信頼感や思いやりの心を育てる。
- ②基本的な生活習慣の自立を養う。
- ③運動機能の基礎を身に付け健康な体を作る。
- ④遊びを通し、想像力/自主性/責任感などを育む。

## 【教育・保育の展開】

教育・保育要領に沿った、それぞれの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらいや内容、並びに年齢や発達段階に応じた指導計画等を組み立てながら日々の教育・保育活動に取り組んできた。

### ① 乳幼児保育の指導体制

0歳から2歳までの保育は、年齢別にクラス編成をしているが、集団との関わりをとおして社会性を育む観点等から、活動そのものは一緒に進めている。

### ② 合同保育の指導計画

3歳から5歳までの園児に対する合同保育（9時～14時位）については、ぱんだ組、いちご組、カンガルー教室からの持ち上がりの園児が多いため、1号・2号の分け隔てなくスムーズな園児活動が定着している。教室では、工作遊び、手遊び、音楽表現などの活動をとおして情操教育の充実を図っている。

### ③ 預かり保育等の充実

「預かり保育」については、朝7時～8時30分、夕方14時30分～20時00分の時間を有料（通常1時間当たり1,900円、30分100円、時間帯により割引有り）で預かる体制をとっている。また、「バス待機預かり」午後4時、2号認定の子の預かり保育は午後6時を限度に、それ以降は、「延長保育（有料1時間当たり3歳未満3,000円、3歳以上1,900円）」として20時まで行っている。延長保育は全園児が対象として実施している。

### ④ 未就園児教室の実施

2歳児の子どもだけを対象としたもの、親子を対象としたもので、年9回開催した。1回ごとの予約制で、毎回30人程度の親子が参加している。「いちご組教室」「カンガルー教室」と同様に、これらは子育て支援を目的として実施しているものであり、保護者や地域から園への理解を深めてもらう観点からも重要な位置づけにもなっている。

## 【各種行事の取り組み】

- 子どもの成長・発達にとっては、行事は欠くことのできない保育活動の一つである。子どもの成長の節目をお祝いする行事（入園式・卒園式・誕生会）や、伝統的な行事（ひな祭り・七夕祭り・豆まき・餅つき）、子どもの日頃の成長、成果を発表する行事（運動会・お遊戯会・発表会・作品展）、体験や活動の幅を広げる行事（遠足・お泊り保育・芋ほり）、親子・保護者同士の交流を深める行事（保育参観・親子遠足）など、実施する行事の目的や意義を明確に捉えながら年間計画を立て実施している。
- 行事によっては、保護者会のお手伝いや、専門学校 학생、聖心高校生のお手伝いをいただきながら実施しているが、今年もコロナの影響により中止や規模縮小といった状況となった。例えば、「入園式」は4月に2部制クラス毎、「お泊り保育」は泊まらずにお楽しみ会として開催、「春の遠足」は、ポートタワーへ現地集合・現地解散実施、10月の学年ごとの遠足は中止、「夕涼み会」は保護者の参加なしで実施、「運動会」は学年ごとに実施、「もちつき大会」は中止、「卒園式」はクラス毎に2部に分け、保護者を2人までと制限をするなど、コロナ対策を意識した行事の取り組みとなった。
- コロナ禍での取り組みにより、職員全員がマスクを着用しての教育・保育活動となり、保育者の表情が見えないであろう子どもたちの感情の動きや行動に注意しながら、「ケアの仕方、関わり方」について試行錯誤の毎日であった。

### 【幼稚舎・保育部の連携強化】

○保育部と幼稚舎との職員同士の共通理解を図りながら保育活動を進めることは運営上の重要な要である。朝の打合せ、職員会議、職員同士の声かけ等をおおして取り組んでいる。特にコロナ禍だからこそ重要なことであると捉えている。

### 【安全・安心な保育環境の整備】

○いつ、どのようなことが起きても適切な対応ができるように保育環境の安全点検に努めてきた。施設設備等に起因する大きな怪我や事故等の発生はなかったが、コロナの感染に伴う臨時休園や保育活動の一部中止等を余儀なくされ、特別保育を実施しながらの保育運営となった。こうしたウイルス感染対策を含めた安全・安心な保育環境づくりに引き続き取り組んでいく。

### 【女専・高校との連携強化】

○専門学校の学生及び聖心高校の「こども保育コース」の生徒に対する保育実習の受け入れを例年どおり行ってきた。子どもたちもお姉さん先生との交流を楽しみにしている。また、職員も新鮮な刺激や気づきがあり、保育の向上にもつながり、連携強化を図りながら相互の交流を推進する。

### 【その他諸課題等】

- 職員の労働環境も、職員の増員、パート職員の従事時間の延長、シフトの組み方の工夫等で、少しずつ、改善されてはいるものの、こどもの人数によって左右される問題であるため、継続してその改善に努めていく。
- 園内外の研修や講習会等に積極的に参加し、保育の質の向上に繋げていく。
- 子育てに不安を抱えている保護者が多いことから、その支援活動に取り組んでいく。